



絵画の内容変化からみた 幼児向け海辺環境学習の効果について

松重摩耶¹⁾，上月康則²⁾，山中亮一²⁾，前田真里³⁾

1)徳島大学大学院 先端技術科学教育部， 2)徳島大学大学院 理工学研究部， 3) NPO法人 人と自然とまちづくりと

研究の背景と目的

幼児にとって，自然体験は全人的成長を促し，生きる力を身に着けさせることのできる原体験である。しかし，幼児の保護者は，自然体験がどのような教育効果を生じさせるかという認識に乏しい¹⁾

【目的】 幼児の絵画内容の変化から，海辺の環境学習の効果を提示すること

方法

幼児には，学習の直前，直後に『海の絵をかいてね』と伝え，A4用紙にクレヨンで絵を描いてもらった。絵画の変化から海辺の環境学習の効果を提示することを試みた。

- ・場所:兵庫県高砂市 高砂海浜公園
- ・日程: ①2015/11/29, ②2016/05/29
- ・人数: ① N=16 ② N=21 合計 N=37 (男児: 14 女児:23)
- ・年齢: 3歳～5歳
- ・プログラム内容:アイスブレイク，生き物探し，触り方のレクチャー，クイズ，ゲーム



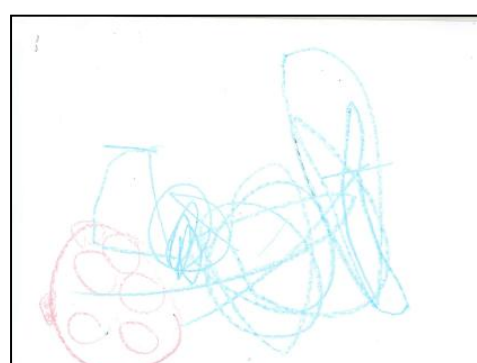
既存の研究（幼児の絵画表現について）

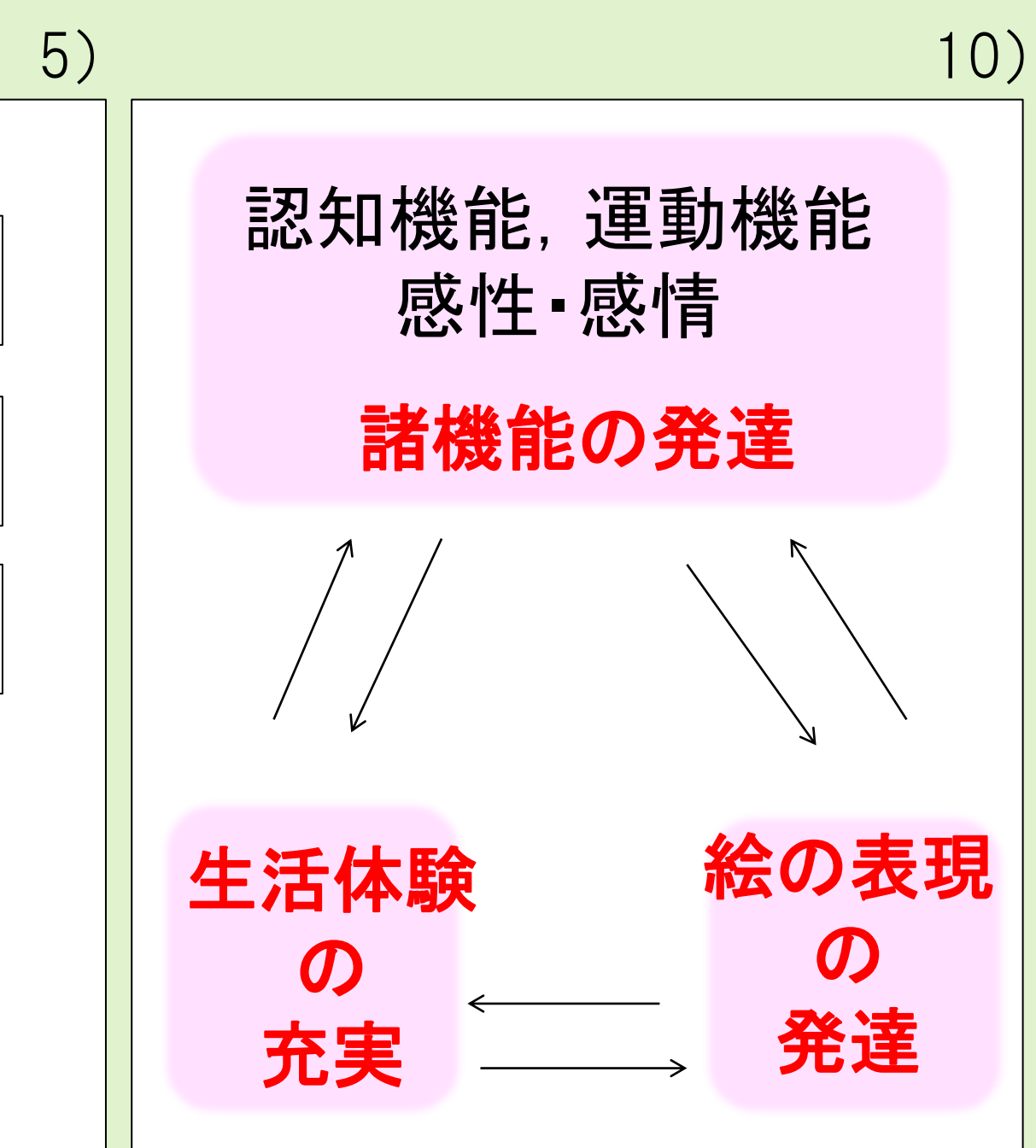
【A】興味のあるもの，関心のあるものは強調して描く²⁾，拡大して力強く描く³⁾。複数の人や動物を描く:集団生活への興味が生まれている⁴⁾

【B】絵の質の発達:発達段階説にとらわれることなく実際の体感により，“期”を抜け出る。自然に関する感覚的な質の向上，感性の向上につながった⁵⁾

【C】絵の質の後退:要因には疲労，外的モデルの模写，内的モデルの欠如，夢想が考えられる⁶⁾

幼児の絵画表現の発達段階は世界共通^{7) 8) 9)}。

	3歳以下	3	4	5	6	7	8	9	10	11 (歳)
ケロック (1969)	①なぐりがき期	②象徴期	③図式期	写実期						
ピアジェ (1966)	①なぐりがき期	位相幾何学的空間の直観				④視点の出現	距離空間構成			
リュケ (1927)	意図的でない描画	モチーフの出現・解釈		内的モデルの「型」				視点の固定		
(例)		⇒		⇒		⇒				
	①		②		③		④			



結果・考察

37枚中23枚はA～Cのような環境学習の効果を提示する事ができた。14枚は変化なし，判断できないものであった。

【A】生き物や人との関わりに興味・関心をもった(N=13)

①生き物を大きく描いた(N=3)



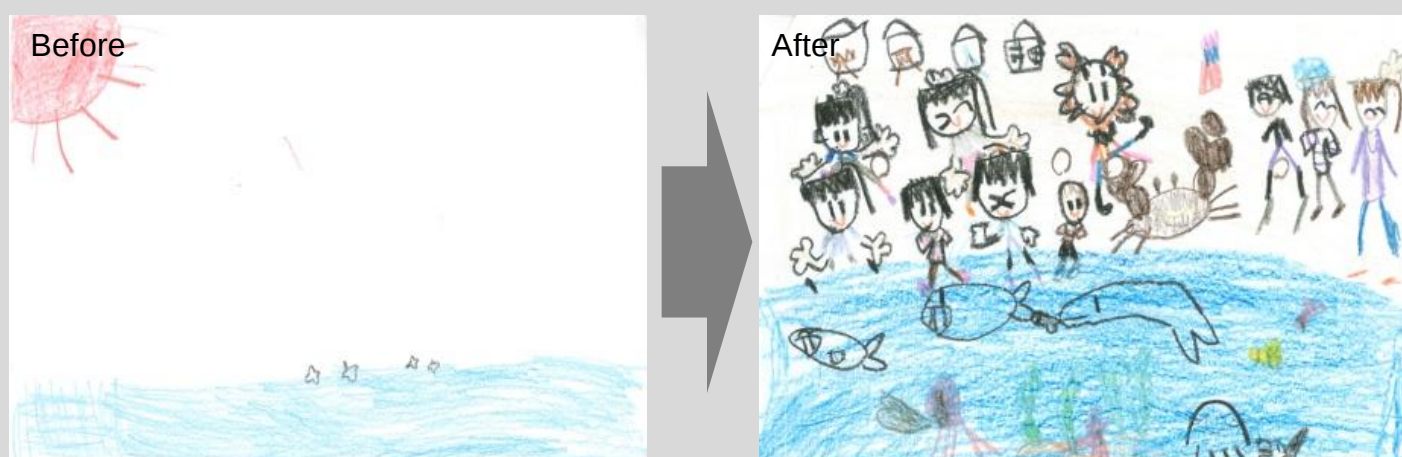
②生き物の種数が増えた(N=3)



③生き物と人との関係を描いた(N=4)



④複数の人を描いた(N=2)

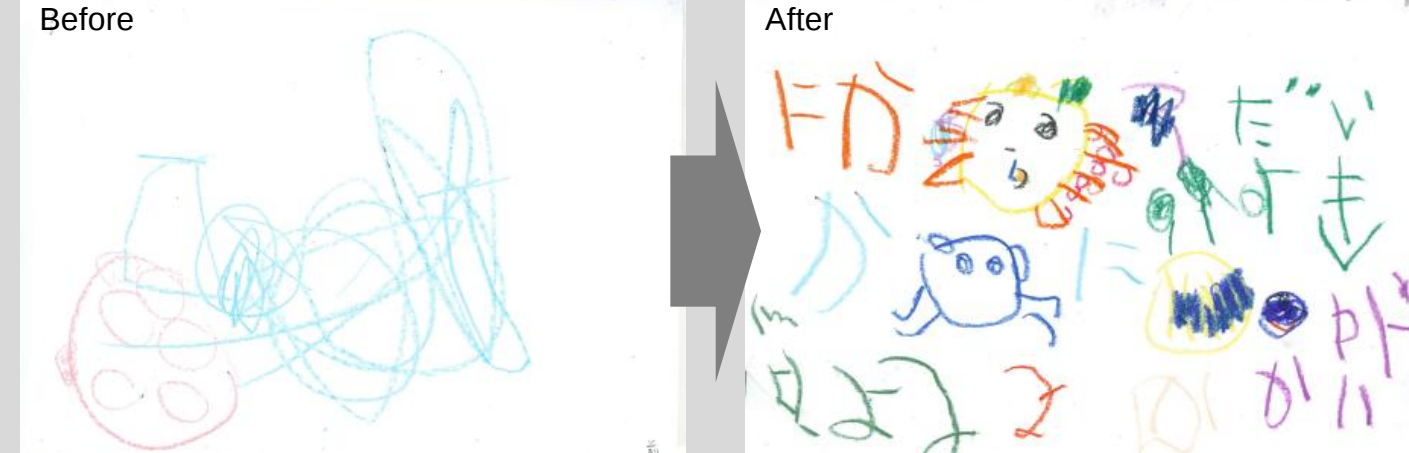


⑤自分だけが発見した生き物を描いた(N=1)

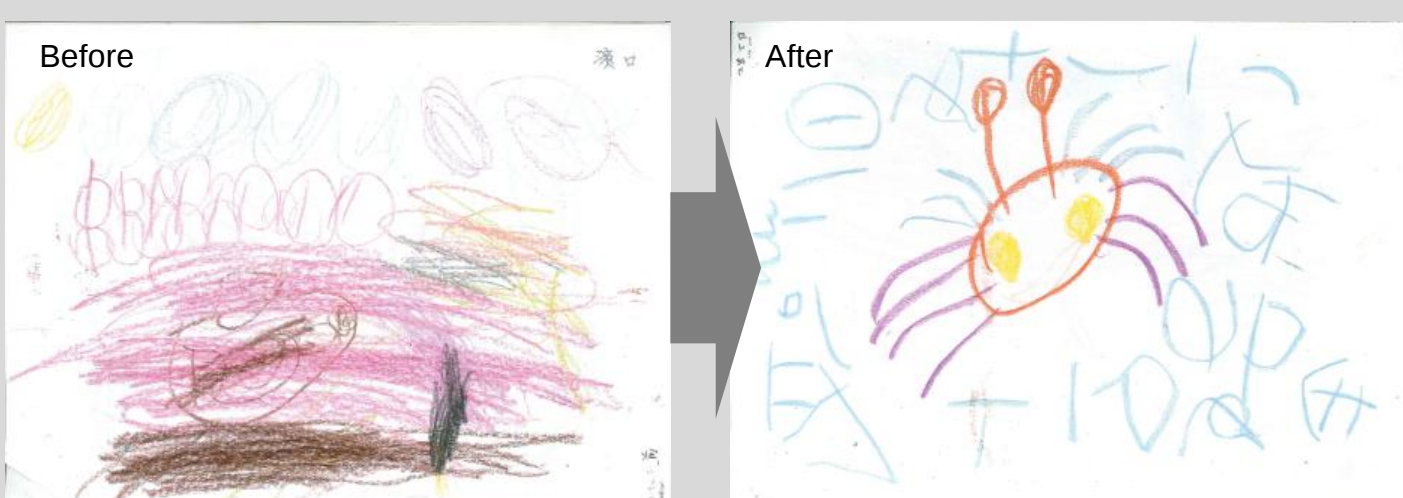


【B】生き物・干潟の認知，感性の向上につながった(N=11)

① なぐりがき期⇒図式期(N=3)



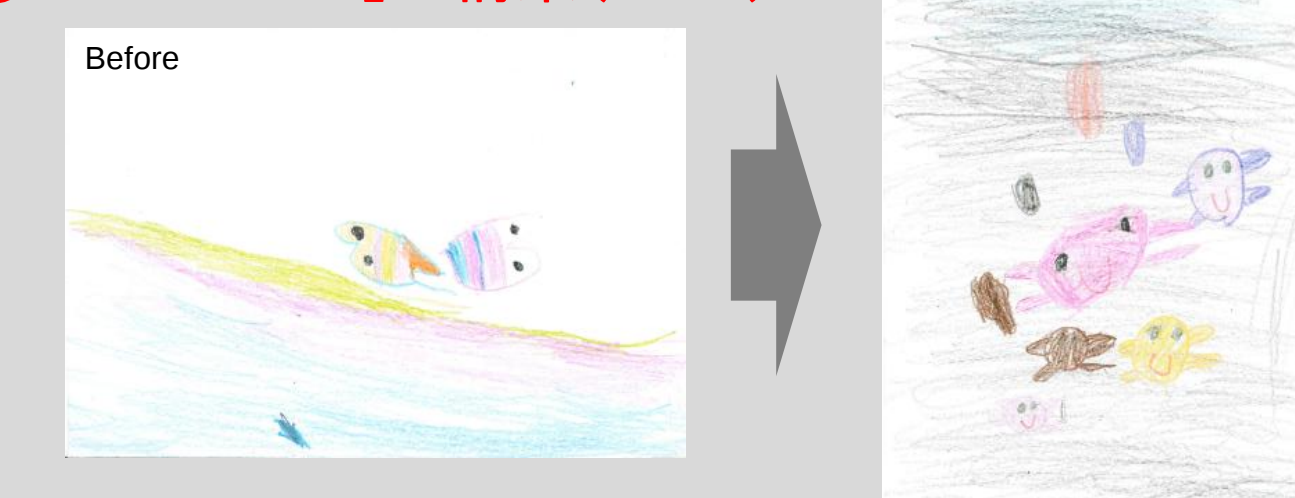
②象徴期⇒図式期(N=1)



③視点の変化(N=2)



④モデルの「型」の構築(N=5)



【C】疲労もしくは表現形式を身に着けようとする敏感期(N=4)

① 象徴期⇒なぐりがき期(N=1)



② 図式期⇒なぐりがき期(N=1)



③ 視点の変化(N=1)



④ 図式期⇒象徴期(N=1)

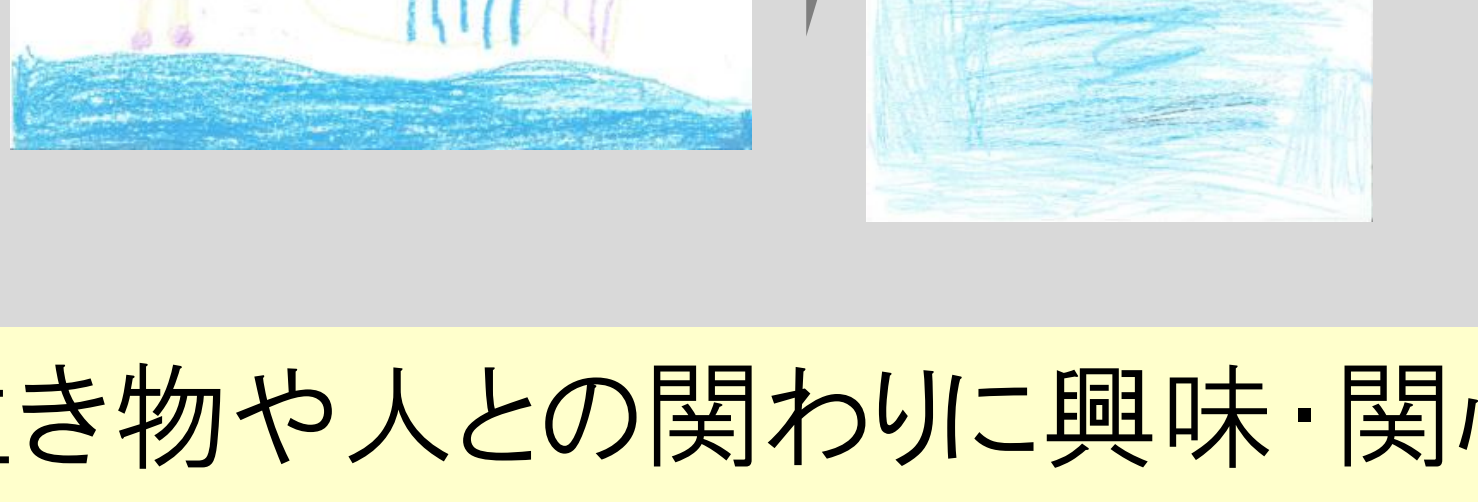
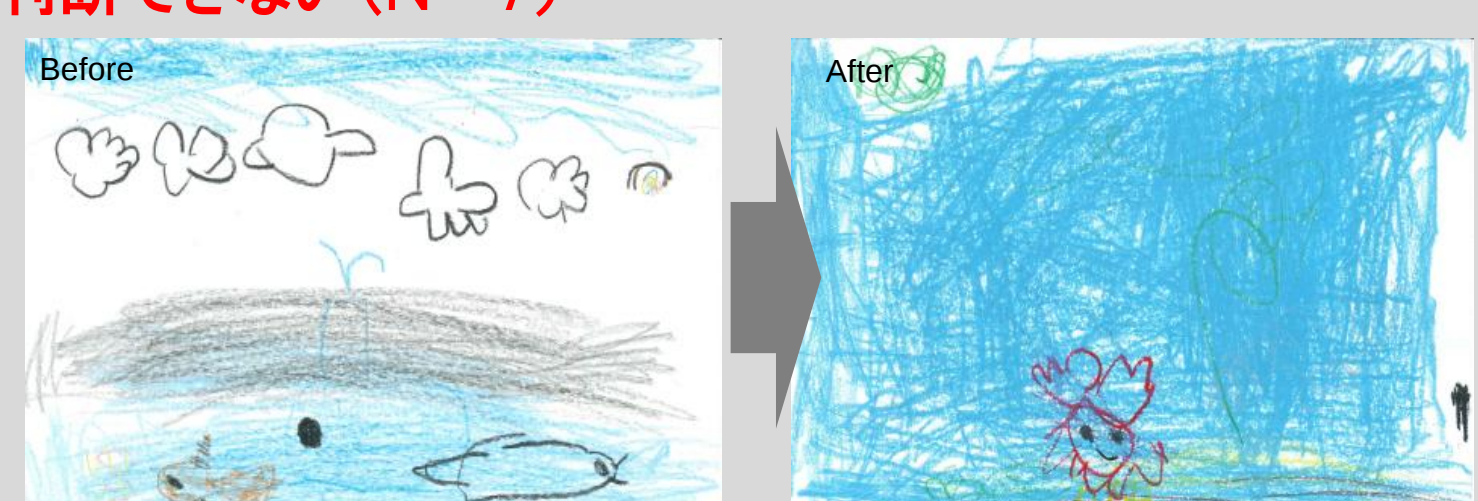


変化なし，判断できない (N=14)

変化なし(N=7)



判断できない(N=7)



今回行った海辺の環境学習の効果は，13人の児童に観察会で触れた生き物や人との関わりに興味・関心を持たせ，11人の児童に生き物や干潟の存在を認知させ，幼児の感性・感情の発達を促したと推察できる。今後は①様々な学習会で絵の採取を行い，考察を深め，②絵から読み取れる学習効果を幼児の保護者に提示することで，親の環境意識や自然体験活動に関わる意欲が向上するかを検討する。

参考文献 1)高橋ら『家庭における子どもの自然体験に対する保護者の認識と教育的意義』(2006)，2)東山明『子どもの絵-成長をみつめて-』(1983)，3)島崎清海『子どもの絵』(1972)，4)末永蒼生『答えは子どもの絵の中に』(2000)，5)山下ら『保育内容・環境と小学校「生活」をつなぐ』(体感プロジェクト)(2013)，6)フィリップ・ワロン『子どもの絵の心理学入門』(2002)，7) Kellogg, R.『Analyzing Children's Art,PaloAlto,Calif.』(1969)，8) J.Piaget, and B.Inhelder, 『La psychologie de l'enfant』(1966)，9)Luquet,G.H.『Le Dessin enfantin』 (1927,1977)，10)中野友三『幼児造形表現の見方，育て方-大人のかかわり方の観点から-』(2002)